

「お住まいの塗り替えにお役に立つ情報を毎月発信しています！」

ニュースレター



## おまかせください！！

2013. 第 72 号



いつもお読みいただきありがとうございます。三商事(さんしょうじ)の上神谷(かみかべや)です。

季節は夏本番を迎えていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

史上4番目に早い梅雨明けの今年。7月6日ですよ・・・まあ、早いこと早いこと。早いのはうれしいのですが、急すぎて身体がついていきません。

その日以降続く猛暑日・・・。動悸が激しく、少し立ち眩みもしたりして・・・。今、考えれば、あのまま頑張っていたら、熱中症確実・・・だったかもしれませんね。4日くらい続きましたでしょうか、猛暑日。

最高記録の連続5日になるかどうか?なんて言っていましたが、結局5日目はそうはならず、34.4℃・・・って、外仕事の僕たちには、その差はあまりわからず・・・暑いことには変わりはなく・・・。

本当に凄い暑さでした・・・って、まだまだこれからなんですよ。始まったばかりなんですから・・・。

皆様もどうぞ、お気をつけ下さいね。

### ■みんなの協力無しではとても大変！

我が家の次女、この前の6月で1才になりました。

「これ、かわいい!」「バイバイ」など、それらしく聞こえる言葉を話すようになってきていますし、歩きだすようになり、階段を登ったり降りたりという、とても一人ではやらせておけないようなことをしだしたり・・・。

目を話すと大変なことになるので、家族全員で面倒をみています。

それに伴って、家事などもその時できる人間がやる・・・といった具合です。

妻が夕食の支度をしていれば、僕が面倒をみる。勉強で忙しい長女にも、勉強の負担にならない程度に手伝ってもらう。(彼女は、ホントは勉強より、面倒を見る方がよかったです・・・。)

お風呂にいれるときは、夕食の支度を妻

に代わって、ぼくがしたり・・・。

お風呂から上がれば、ぼくが先に夕食を済ませておいて、妻と交代して妻に食べてもらったり・・・。

食べ終わると、長女の夏休みの宿題の一環でもあります、お皿洗いを長女がします。

毎日こんな感じですよ。みんなそれぞれ仕事だったり、家事だったり、勉強だったりにおわれているわけで・・・。

こんな感じで協力していかないと・・・一人ではとても大変なわけで。

みんなで、けがもなく元気な子供に育てていきたいと思います。

この夏はあまり遠くには行けないけれど、近場でどこかに遊びにつれていけないかな・・・と妻と話しています。

どこかにいけたら、また紙面に書きたいと思います。



お世話になっております。  
長坂利昭です。

今号もお読み頂きありがとうございます。

## ■私も家族ネタを・・・



早速ですが、7月30日未明、我が家にも第2子となる女の子が生まれました。2665グラム。

妊娠36週と2日、ちょうど10カ月に入ったばかりでの出産となったため、多少、体は小さめですが、元気に産まれてきてくれました。

普通だったら、ちょっと早い出産でしたねとなるところですが、これでも母子共に頑張った結果でありまして・・・。

というのも、3カ月近く前の5月から、妻は病院に入院していましたので・・・。

「切迫早産」でした。

早産の恐れがあるので、4月あたりから「自宅で安静にしてください」と言われていたのですが、4歳の娘を面倒見ながら暮らすには、安静になど不可能な話で・・・。

それでも出来るだけ安静に努めてはいましたが、5月の検診で入院の基準に達してしまっただけ、やむなく入院・・・。

入院当初は、無事、元気な子を出産できるかどうかの不安と、娘と離れて暮らす淋しさから、号泣の日々の妻でしたが、一方でいち早く腹をくくった我が娘。

それまでの、母親に“べったり”が嘘のように、私との二人の生活を普通に送り、周りが困るようなことも言わず・・・娘の

“強さ” “たくましさ” に驚きでした。

## ■「切迫早産」って・・・

晩婚化、高齢出産が進むご時世。「切迫早産」になる妊婦さんも増えておりますので、皆様にもちょっとご説明を・・・と言っても、私のような一般人が得た知識で、難しいことも書けませんので、男性の方も軽いお気持ちでお読みくださいませ。

先にも書きました通り「切迫早産」での入院。妻の場合は、「子宮頸管」という部分が短くなってしまいました。

子宮頸管というのは出産の時が来るまで、胎児が子宮から出てこないように、子宮の出口を閉じ、押さえている部分。

例えばと・・・ゴム風船を膨らませた後、風船の口をしっかり摘まないと、空気が漏れてしまいますよね。空気が漏れないように指で風船の口を摘む・・・摘んだ部分が「子宮頸管」というわけです。

通常、この子宮頸管がしっかりと閉じている長さは3～4cm。妊娠の経過とともに、胎児・羊水の重みの影響も重なり、緩み、短くなっていきます。

妊娠9カ月位で、3cm程を保っていれば、何ら問題はないのですが、今回の場合、妊娠7カ月の時点で既に2.5cm・・・。

実は、今4歳の娘を妊娠した時も、同じように子宮頸管が短くなり、10日間入院しました。幸い、妊娠10カ月直前だったので、10日間で済んだわけですが、今回は7カ月からの入院。

この「子宮頸管」。厄介なのは、緩んだら

元に戻らないという点。今の医療、人体の仕組みからして、長くすることは出来ないの、とにかく、それ以上短くならないようにと現状維持を目指すしかないそうです。

入院生活では、お腹の張りを抑える（陣痛が始まらないための）点滴をしながら、安静に徹するわけですが、それでも現状維持は難しく、9カ月に入った頃には、測れるか測れないかほどの短さに・・・。

そんな状況ながらも、何とか36週まで持ち、点滴の必要がなくなり、一時退院の話が出た矢先に出産を向かえたわけです。それにしても、点滴を外して約15時間後の出来事・・・点滴の効果ってすごい・・・。

## ■今の時代でなかったら・・・

そんなこんなで、苦労しながらも、無事出産を終える事が出来たわけですが、逆を返せば、現代に生きて、今の医療のお陰で、何とか無事な出産を向かえることが出来たとも言えるわけで・・・。

これが私の生まれた頃、40年位前の話であれば、とくに早産、最悪の事を考えれば死産という可能性もあったでしょう。

始めにも書きましたが、高齢妊娠・出産が増えている世の中ですから、苦労しながらの出産も増えています。

それでも頑張って産んだお母さん方、そして生まれてきた子供たち・・・周囲の人たちが温かく見守って、手助けしてあげられる社会でなければいけないと思います。

今回の妊娠・出産は、お客様方、親方、三商事スタッフ、上神谷家の皆さんなど、多くの方々にご協力、ご支援を賜りました。

感謝致します。ありがとうございました。

## ■一般住宅に必ず付いている物・・・

ここからは、塗装のお話です。

「一般的な戸建住宅に必ず付いている物」。何だか“なぞなぞ”みたいですが、別に何のひねりもありませんし、答えもたくさんあります・・・。

今号では、その内の「雨樋」について取り上げたいと思います。

梅雨から夕立の多い夏というこの季節に無くてはならない「雨樋」。役割としては、屋根や壁を伝ってきた雨を受け、効率良く排水する為の筒状の物とは、皆さんもご承知の事と思います。

当然、外壁に固定されており、露出している物ですから、外壁の塗り替えをされる時は、この雨樋も塗装する事をオススメします。

雨樋も、放っておけば、樹脂製の物なら割れやすくなり、金属製の物ならサビて腐食が起き、劣化してしまうのです。塗装する事により、この劣化の進行を遅らせる事が出来ます。

## ■雨樋も塗るんですか・・・？

塗料の質が悪かった頃は、「雨樋は塗る物じゃない」という事も言われました。塗った塗膜が雨樋表面にしっかりと密着せず、剥がれる事が多かったためです。

しかし、塗膜の密着を良くする下塗材が発売されて以来、塗膜の著しい剥がれは抑えられるようになりました。

雨樋は家の端々にある物ですから、外壁と共に塗装をすると、出来栄が良くなるんですよ。

## ■雨樋が役目を果たしていない事も・・・

工事をしていると、雨樋が詰まっていたり、雨水がきちんと流れていないお宅が多くあります。

詰まっている場所は、大体が横樋と縦樋が交差している、「枅」と言われる部分。

この枅にゴミよけの網状のカバーをされているところもありますが、逆に樹木の葉が積もってしまって、排水が出来なくなっていることがあります。

まれにですが、その葉などが堆肥のように積もってしまい、植木鉢の様な状況になっていることも・・・。

当店では、高圧洗浄の際に、このような不具合があるかのチェックするように心掛けております。

普段、お住まいになっていて気になっているところがありましたら、事前にお伝えくださいませ。

~~~~~

発行者 上神谷裕治 (かみかべやゆうじ)

記事 上神谷裕治、長坂利昭

住所 府中市紅葉丘1-1-15

TEL、FAX 042-365-1402

または 090-1504-8833

ホームページ <http://www.sanshouzi.com/>

ブログ <http://sansyouzi.blog73.fc2.com/>

<http://sansyouzi.seesaa.net/>

~~~~~

